

茨城県水産試験場

令和元年度（平成31年度）評価書

令和3年1月

茨城県水産試験場

評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価: A(3.0)	試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取り組みを実施していると判断できる。
アユ産卵場造成やゲンゴロウブナ性転換雄作出技術開発など、研究成果の活用が期待される研究課題を進めている一方、資源、海況、水質、さらに水産物の安全性等にかかる地道なモニタリング調査、情報発信にもしっかり取り組み、漁業者、加工流通業者の日々の経営支援に貢献していることを高く評価する。 また試験場に水産業普及指導員を配置し、内水面支場では霞ヶ浦北浦水産事務所の普及員と連携を密にし、一体となって迅速に現場解決できる体制をとっていることも評価できる。 外部人材育成や他機関との連携についても、数値目標を大きく上回る実績となっている。限られる職員数の中、試験場の役目と考える産業振興への貢献という観点から、バランスのとれた人員配置、エフォート管理をお願いしたい。同時に組織として働き方改革を積極的に推進し、職員の負担軽減に努められることを期待する。	

□項目別評価

i) 県民に対して提供する業務

1) 試験研究

評価: A

性転換率100%の技術を開発するとともに、その機構を明らかにしたことを高く評価する。成果の普及先は国内にとどまらず、世界中に広がることを期待される。実用化にあたっては、ホルモン処理した種苗の管理に懸念があり、天然水域への亡失阻止対策も検討すべきであろう。研究の成果が地域振興に寄与されることを期待したい。

2) 相談業務

評価: A

水産加工業者からの高度化するニーズに対し、質的に十分な取り組みをしている。研究員数が少ない中で、数値目標以上の相談業務をこなしており、高く評価できる。

3) 成果の伝達普及・指導業務

評価: A

全国的に違法放流で急速な拡散が続く特定外来生物コクチバスについて、県内河川の侵入状況の把握や漁協への駆除指導を行っている点は評価できる。これを維持し普及啓発を続けながら、他水系への違法放流防止の実効性を高めるためには、本種についてさらなる対策の検討が望まれる。漁海況情報や酸素情報の発信は数値目標を大きく上回っていることを評価する。巡回指導・漁業者活動支援としての巡回指導の取り組み、産卵場造成技術の普及・指導においてアユ産卵場造成の取り組み技術が好評を得るなど、その対応は評価される。

4) 漁業無線業務

評価: A

地震、衝突事故等の突発時や、国と連携した北朝鮮弾道ミサイル発射時のJアラートに対応した緊急情報発信等、24時間体制で操業漁船の安全確保、漁業支援に適切に対応していることを評価する。

5) 外部人材育成

評価: A

一般県民向け講座や小学生向けの研修など、数多くの実績を上げており、その取り組みは高く評価される。

6) 知的財産の取得・活用

評価: A

生食用凍結シラス「海の輝き」ブランド確立に向けたこれまでの巡回指導が生産関係者の知的財産管理への認識を高める効果を発揮していることを評価する。新たな製品の開発を期待したい。

7) 広報・普及啓発

評価: A

国際誌含め場外への研究報告のほか研究成果公表が多数あったことを評価する。また漁業関係者への調査結果の発信、一般市民への成果普及などバランスがとれた広報・普及啓発であると評価する。

ii) 業務の質的向上、効率化のために実施する方策

1) 全体マネジメント

評価:A

数値目標を達成している。定時退庁日の設定、時差出勤、テレワーク勤務の推進、育休制度の積極的活用など職員のパフォーマンス向上に組織として努めていることも評価できる。さらにデジタル化にも積極的に取り組み、業務の効率化が図られていることが認められる。

2) 県民ニーズの把握

評価:A

数値目標を達成し、現場で収集した県民ニーズを適切に研究課題に反映している。またシラス網漁への混獲対策等、試験場と水産業普及指導員が同所に配置されていることによる現場解決型体制のメリットが遺憾なく発揮されている状況である。

3) 他機関との連携

評価:A

数値目標を超える取り組みを実施している。地域の企業や研究所、大学等の他機関と複数の共同研究を展開し、成果を上げている点は高く評価できる。

4) 外部資金の獲得方針

評価:A

必要な施設整備、研究課題の推進に資する外部資金を獲得しており、適切である。

5) 内部人材育成

評価:A

プチゼミや場内ゼミを継続し、研究しやすい環境の整備に努めている点は高く評価できる。場内技術研修は研究課題の推進に当たって人事異動による影響を排除することが期待でき、高く評価する。

【様式7】整理表(項目別評価)

茨城県水産試験場

評価項目 (年度実施計画)	研究所等の自己評価		評価委員会評価	
	評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
い 県民 対 し て 提 供 す る 業 務	1)試験研究	A ○質・量の両面において着実に取り組みを実施 1 ゲンゴロウブナ性転換雄作出技術開発に関する試験研究事業 霞ヶ浦系統のゲンゴロウブナについて、ホルモン処理により全ての 個体が雄となり、遺伝子型がXX、表現型が雄(性転換雄)となるゲン ゴロウブナが作出可能となった。また、LC-MS/MS解析によるタンパ ク質同定を実施し、酸化ストレスに係るタンパク質群が性転換雄作 出(精巢分化)に寄与することを見出した。これらの成果により、全 雌種苗生産を通じた地域の養殖業振興が期待される。	A	○質・量両面にお いて概ね令和元 年度計画を達成
	2)相談業 務	A 随時、漁業者や加工業者の相談やマスコミ、一般県民からの問い 合わせに対応した。 ○数値実績 合計 96件/年 ・加工技術相談(異物混入等) 88件 ・加工技術相談(細菌関係) 8件 ・その他 5件 ・魚病相談 43件	A	○質・量両面にお いて概ね令和元 年度計画を達成
	3)成果の 伝達普 及・指導 業務	A ○質・量の両面において着実に取り組みを実施 ① 技術・研究成果の伝達普及 1. 技術講習会等の開催 ○数値実績 ・沿岸資源談話会:3回(2/18大津、2/19ひたちなか市、2/20鹿嶋 ・加工技術講習会:1回(9/11大津) 2. 漁海況情報の発信 ○数値実績 ・漁海況速報:1回/週 ・水産の窓:29回/年 ・フェイスブックによる漁海況等情報発信:68回 ・イワシ・サバ脂肪測定結果HP公表:19回 3. 巡回指導・漁業者活動支援 ○数値実績 ・巡回指導:延べ296日・人/年 ・浜の活力再生プラン(地域浜プラン)指導:16回・地区(8地区×2回) ・第2期浜の活力再生プラン策定指導:8回・地区(2地区×4回) 4. 産卵場造成技術の普及・指導 ○数値実績 ・アユ産卵場造成:2漁協 計 2,151 m ² ・オイカワ等産卵場造成技術開発及び指導 :2漁協 計1,510m ² 合計3漁協(大瀬沼漁協重複) 計3,661m ² (トピックス) ・アユ産卵場造成は秋季の台風等に由来する出水・水害により多く の河川で実施ができなかった。 ・本県発の産卵場造成技術が、全国湖沼河川養殖研究会において 注目された他、鳥取県主催の講演会に担当職員が講師として招か れ、講演の結果、好評を得た。 5. 外来魚対策 ○数値実績 ・浸潤状況調査:5回 ・駆除マニュアルに基づく指導:2回 6. 養魚・増殖技術指導 ・ワカサギ水槽内自然産卵法の導入・指導を実施。霞ヶ浦漁協19 ② 漁場環境保全・魚類防疫業務 1. 霞ヶ浦北浦酸素情報	A	○質・量両面にお いて概ね令和元 年度計画を達成

	<p>例年より早い6月に低酸素状況が確認されたため、早期に酸素情報公開を開始し9月末まで実施した。これにより養殖業者に溶存酸素情報を提供し、斃死被害の未然防止を図った。</p> <p>○数値実績 ・6月:6回、7月:22回、8月:21回、9月:19回 合計:68回 ・低酸素情報:2回</p> <p>2. 貝毒プランクトンモニタリング調査 麻痺性及び下痢性貝毒の原因プランクトンの検査を実施し、毒化兆候の早期把握に努めた。</p> <p>○数値実績(実施時期:4~9月、2~3月) ・麻痺性:9回 ・下痢性:9回</p> <p>3. 大型クラゲ来遊状況調査 本県沖合のエチゼンクラゲの来遊状況を調査船いばらき丸で調査した。大型クラゲは確認されなかった。</p> <p>○数値実績 ・1航海(10月)のほか、9月の海洋観測時に目視調査を実施した。</p> <p>4. 魚病相談対応 魚病の蔓延防止のため、業者から依頼のあった魚病相談に適宜対応した。</p> ・魚病相談件数:43件(再掲) <p>③ 衛生・鮮度管理技術指導 1. 衛生管理マニュアルの実施指導 各市場の指導(8月5回、10月1回、11月2回、2月2回 合計10回)</p> <p>2. 水産物安全モニタリング調査 ・水産物の安全確保のため、調査船による検体採集、前処理、分析機関への検体送付を行った。 ・漁業調査指導船「いばらき丸」 採集日数18日、検体数62種509検 ・漁業調査指導船「せんかい」 採集日数18日、検体数12種29検体</p>	
4)漁業無線業務	<p>A ○質・量の両面において着実に取り組みを実施</p> <p>1. 定時放送 ・気象台発表の海上気象予報や航行警報情報を漁船及びプレジャー船に迅速に提供した。 ・船舶の常陸那珂港への入出港情報や那珂湊漁港水門情報を漁船に提供し、操業の安全確保を図った。</p> <p>○数値実績 ・気象・航行警報情報提供:10回/日</p> <p>2. みなしGM通信 ・みなしGM船の出入港、操業、漁況、行動情報などの連絡を行う</p> <p>○数値実績 3回/日以上(最大7回/日)</p> <p>3. 所属船の緊急事態への対応 ・漁船との情事通信体制、漁船間通信、出入港情報の常時聴取を行った。</p> ・地震・津波や座礁・転落等の緊急時の受信と海上保安部等への通報等に24時間体制で対応した。 ・北朝鮮ミサイル発射に伴うJアラートに対応した迅速な情報発信のために、40MHZで安全情報の自動送信を実施すると共に、2MHZの手動送信を行った。 8/24、10/2、10/31、11/28、3/9、3/21、3/29の計7回	<p>A ○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成</p>
5)外部人材育成	<p>A 出前講座、研修会の開催、大学生の受入れ等により外部人材育成に取り組んだ。</p> <p>○数値実績 ・夏休みいばらき水産・海洋教室:1回(7/23~7/25、延べ48組100 ・ひたち生き生き百年塾:小学生向け加工体験講習会(1/19「日立市の魚を使ったかまぼこ製造体験」) ・加工体験講習会:1回(1/25カマボコ製造)</p>	<p>A ○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・種苗放流体験講習会:1回/年(9/3、大津漁協ヒラメ放流体験、北茨城市幼稚園児及び小1~3、約160名) ・ひたち水産業探検少年団①:日立市在住小2~6、16名(5/26、「茨城の海と漁業について」) ・ひたち水産業探検少年団②:日立市在住小2~6、14名(11/17、「船びき網漁船と装備について」) ・さがんぼ恩返し隊 栃木県小学生 20名「茨城の海と漁業について」(8/18) ・魚食普及推進に関する学習:ひたちなか市内小学生、約200名(10/10、「那珂湊の魚のニコちゃんについて」) ・水産多面的機能発揮対策事業水産学習:神栖市内小学生、49名(11/1、「利根川のシジミとウナギの生態」) 		
	6)知的財産の取得・活用	A <ul style="list-style-type: none"> ○質・量の両面において着実に取り組みを実施 ・「海の輝き」生産関係者が情報管理について認識を深めてきているため、巡回指導の際の関係者への口頭指導により、情報管理の徹底を図った。 4漁協、4回 	A	○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成
	7)広報・普及啓発	A <ul style="list-style-type: none"> ○質・量の両面において優れたパフォーマンスを実現 1. 情報誌の発行、調査情報の広報 ○数値実績 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告 :0件/年 ・水産試験場試験研究報告以外の報告:5件 Fisheries Science、黒潮の資源海洋研究他 ・全国研究発表大会等での発表実績:7件 ・ワカサギ情報:3回/年(5/27、7/17、7/21) ・アユ遡上情報:計13回(H31年4月~5月:8回、R2年3月:5回) ・アユ解禁日情報:2回 ・霞ヶ浦北浦湖沼観測結果情報:11回 ・主要魚種の生態と資源リニューアル:25種 2. 視察者の受入れ <ul style="list-style-type: none"> ・モルジブ地方政府職員研修生6名(10/21) 3. 各種イベントへの参加 ○数値実績 <ul style="list-style-type: none"> ・移動水産試験場:3回 <ul style="list-style-type: none"> 大洗海の幸まつり(6/9) ひたちなか市魚食普及講演会(8/21) みなと産業祭(10/20) ・海洋高校生への業務紹介:2回(5/17、6/21) 	A	○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成
ii)業務の質的向上、効率化	1)全体マネジメント	A <ul style="list-style-type: none"> ○質・量の両面において優れたパフォーマンスを実現 1. 水試業務全体のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・定例部長会(本場1回/週、支場合同1回/月)等で場全体の業務の進捗管理や課題の共有を図った。 ・場内設置した各種委員会を活用し、ゼミの開催、HP の活用等を行い、効率的に業務を進めた。 ・調査船や場内施設、機器等を適切に維持管理した。 2. 研究活動のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1)研究等の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・計画ゼミ、中間報告会、成果報告会を計画どおり各1回開催し、業務の進捗管理を行った。 ○数値実績 <ul style="list-style-type: none"> 3回(計画・中間・成果ゼミ) (2)評価委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ○数値実績 <ul style="list-style-type: none"> ・内部評価委員会:2回(12月、3月) ・機関評価委員会:1回(7月) 	A	○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成

		(3) 行政との情報共有 ・水産部局打合せ等での行政との情報共有:2回 ・その他の情報共有 ワカサギ資源打合せ:1回		
2) 県民ニーズの把握	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 1. 研究ニーズの把握と研究課題の設定 ・沿岸資源談話会の開催や普及員等による各種会議への出席、巡回指導などにより、研究ニーズの把握に努めるとともに要望等に対 ○数値実績 ・沿岸資源談話会:3回(再掲) ・巡回指導:延べ296日・人/年(再掲) ・水産部局打合せ等での行政との情報共有:2回(再掲)	A	○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成
3) 他機関との連携	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 1. 共同研究・連携の推進 全国場長会や国、大学、他県の研究機関が参加する会議等を通じて情報収集や技術習得に努めた。 試験研究の高度化、効率化のため、大学や水研等との共同研究を実施した。 ○数値実績 ・共同研究課題数:6課題 ・大洗水族館への展示用生物提供:12回 ・県立自然博物館への展示用生物提供:9回 ・霞ヶ浦環境科学センターとのプランクトン分析連携:2回 ・水産工学研究所との共同・連携協議:1回	A	○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成
4) 外部資金の獲得方針	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 ・国庫補助、受託研究件数:6課題	A	○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成
5) 内部人材育成	A	○質・量の両面において優れたパフォーマンスを実現 研究員・職員の資質及び能力の向上を図るため、ゼミや各種研修会等に参加した。 ○数値実績 ・成果発表件数:7件 ・場内ゼミ:33回/年 (一般ゼミ27回、プチゼミ7回) ・技術研修参加:17人/年 (技術研修内訳) 海況解析技術に関わる研修会 1人 資源管理研修会4人 シラス類同定研修会1人 水産用医薬品薬事監視講習会 1人 水産業普及指導員研修会 2人 東北・北海道・日本海ブロック水産業改良普及員集団研修会 2人 短期集合研修(数理統計)基礎編1人 フォークリフト運転技能講習3人 主任無線従事者講習会2人 他 ・その他の研修 (場内技術習得研修会) 粗脂肪分析研修 7人・回 PCR分析技術研修 6人・回 液体クロマトグラフィー分析技術研修 8人・回 アミノ酸分析技術研修 4人・回 耳石日輪、年輪解析研修 11人・回 (職員職務能力・資質向上研修) メンタルヘルス研修 46人・回 ひたちなか署による交通安全研修36人・回 公務員倫理研修(場内)50人・回	A	○質・量両面において概ね令和元年度計画を達成